

# 月次レポート

2008年10月31日

ありがとう投信  
Arigato Asset Management Inc.

ありがとうファンド(愛称ファンドの宝石箱)  
追加型株式投資信託/ファンド・オブ・ファンズ 分配金再投資専用

ありがとう投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)  
第304号 (社)投資信託協会会員

先月のレポートの冒頭に「史上かつてないくらいの出来事に満ちた9月の市場も終わりました」と申し上げましたが、10月は9月上回る激動の月でした。

以前アメリカの中西部に住む友人が、記録的な洪水の被害の後にこう言っていました。  
「去年もひどい洪水があって『これは数十年に一度起こるくらいひどい洪水だ』と言っていた。その翌年にまた『数十年に一度の...』とはどういうことなんだ!!」

2ヶ月続いて未曾有の激動に見舞われましたが、市場の激動は自然の現象ではありません。巨大な地震のようなショックではありますが、全ては人間の引き起こしている現象です。人間が引き起こすことは人間が対処できます。投資の現場に起こった大地震に対処しなければならない時に、最も役に立つ対策のひとつが長期投資です。時間軸を極めて長く持つことで腹が据わります。以前ご紹介した「三つの目」、鳥の目を持って高い空から全体を見る気持ちの余裕ができます。大変化が起きている時には、どんな流れなのかを感じる魚の目が欠かせません。そして虫の目で現実を見てみれば人々の生活は変わらずに続いていきます。

私どもは今起こっている変動が次の社会を変えてゆく大きな変化の前触れであると思っています。どのような変化が起きようとも私たち自身がその変化の一部ですし、変化を押し進める力でもあります。ピンチは常にチャンスですが、そのチャンスはその心構えがない人には永遠に訪れません。今がその時です。

.....

さて、今月は激動の市場や経済の中で今一番感心の薄いことからお話ししたいと思います。それは「インフレ」です。

童話に出てくるオオカミ少年はいつも「オオカミが来た」と言っ  
ては村人をだまし続けて最後に本当にオオカミが来た時には信用されず  
にオオカミに殺されてしまいます。インフレにも似たようなイメージ  
があって、何度もインフレ到来の兆しが浮かんでは消えてきました。  
つい最近も原油価格を初め資源価格や農作物が急騰に急騰を続け、こ  
のまま行けばインフレ必至と思われていた時期がありました(つい  
この前です)いつの間にか誰もインフレの心配を口にしなくなりました。それどころか今世界中の政策  
担当者が心配しているのはデフレです。それではインフレはどこにいったのか?もうインフレの心配は  
しなくてよいのか?



結論から申し上げますと、当面インフレの心配は必要ない、と考えてよいと思います。昨年からの資源価格高騰のときに想定されていたのは新興国を含めた世界中の需要の高まりが資源価格の上昇を引き起こしそれが一般物価にも波及するというインフレの懸念でした。いまや世界的な不況の深刻化が心配されているのですからその想定そのものが変わってしまいました。しかし長期的に考えた時には全く違う状況も頭においておいたほうが良いと思います。経済には波がありますから、不況もいつかは終わります。その時には消えていたはずの需要が復活してきます。また資源価格も今は下落していますが、価格が下落していると資源開発の活動も鈍りますので需要が復活した時には間に合いません。したがって長期的には状況は又変わってくるでしょう。

さて、今回の金融激動を経て、何が起こってくるかです。当然緊張する時期が続くでしょう。しかし期待も大いにあります。

何が始まるのでしょうか? このレポートの最後に少し申し上げる予定です。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

先月まで何度か申し上げた「犬（实体经济）を振り回す尻尾（肥大した金融取引）」が急におとなしくなりました。これからは犬がしっかりしなければなりません。今まで巨大な尻尾が振りまいていた「高収益」という（結果的には幻想だった）打出の小槌を失った株式市場は景気後退という恐怖におびえて元気を失くしています。景気という観点からはその心配には十分に根拠があります。

しばらくは好景気という言葉とはお別れです。その証拠に各国の中央銀行が足並みをそろえてどんどん金利を下げています。11月初旬の今の段階でもまだ利下げの流れは終わっていないと思います。世界的に更に金利が下がる可能性があります。

この一連の世界的な利下げには二つの側面があります。

ひとつは、先ほど申し上げたデフレの恐れが出てきているので、それを防ぐために思い切った利下げと資金供給が必要である、という考え方です。経済活動のコストである金利を下げて経済活動を活発にするという意味もあります。

もうひとつは、はたしてこんなに金利を下げ続けて、しかも市場にどんどんと資金を供給して、将来インフレの元になる火種を作っているのではないか？という疑問です。

これらをまとめて考えると、デフレなのかインフレなのか？という問題は簡単ではないことがわかります。すなわち今の段階ではわからないことが多すぎます。それでもあえて申し上げれば二つの可能性があります。

ひとつは、デフレ的なものとインフレ的なものの共存です。例えばもし世界の安い労働力を活用するという今までの流れが続くのであれば、労働の対価である賃金はデフレ的でしょう。一方資源や金など有限なものはインフレ的になるかもしれません。それらが共存することはあり得ます。

もうひとつは時間を追ってデフレとインフレが交代する可能性です。先ほど申し上げたように今の時点でインフレを心配している人はいません。しかし時間が経って状況が変わればわかりません。時間はあっという間に経ってしまいます。気がつくとき景色が変わっていることもあり得ます。運用という観点からは、デフレなのかインフレなのかというのは大きな問題です。今までどおりこれからもこの点を大いに注目していかなければなりません。

アメリカの大統領選挙で民主党のオバマ候補が次期大統領に選ばれました。



まだ当選が決まったばかりで正式の就任は来年の1月後半です。しかし今度の大統領が実質的に動き出すのは早いと思います。今月行われるサミットにも出席すると言われていています。恐らく財政政策を含めた政策発動は直ぐに動き出し、しかも内容もかなり思い切ったものになるでしょう。財政政策の発動はアメリカだけではなく欧州でも中国でも日本でも次々に出てきます。それらを全てあわせた最終的な規模や内容は今ではまだわかりませんが、極めて大規模で大胆なものになる可能性は充分にあります。それに加えて今進行している利下げと市場への資金の大量投入が今回の歴史的な金融危機と世界不況の可能性に対する各国の対応策です。

はたしてそれらがどんな世界を生み出してゆくのか？

恐らく、変化が生まれるのは市場とか経済の領域だけではないと思います。社会も大きく変わっていく可能性があります。

冒頭に申し上げたように、私たちもその変化の一部です。それを心にとどめて次なる変化を見つめていきたいと思います。

ありがとう投信株式会社 代表取締役 村山 甲三郎

基準日 / 2008年10月31日

基準価額 7,495円  
純資産総額 52億64百万円  
受益権総口数 70億24百万口  
年率複利( ) -6.69%

期間別騰落率

1ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
18.3%	31.6%	42.4%	34.3%	25.1%

「年率複利」とは、設定から現在まで運用を行った結果を、複利で換算した場合に何%でまわっていたかで表したものです。過去の実績値であって将来の成績を保証するものではなく、また個々のお客様ごとの購入時期によって運用結果は異なります。

皆様のありがとうファンドの基準価額は、月間で18.1%下落しました(10月1日～11月4日)。

また、各組入れファンドの月間の状況は右表の通りで、同じ時期の市場の値動きは、TOPIX(東証株価指数)が20.3%、MSCI\*のWI(先進国指数)が19.0%、同じくEM(新興国指数)が27.4%、円/ドル為替は7.2%の円高となっています。

\*MSCI :モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル。世界で広く使われている株価指数を算出している会社です。騰落率はドルベースのnet指数で計算しています。

ファンド名	08/10/01	08/11/04	騰落率
ありがとう	8,907	7,293	18.1%

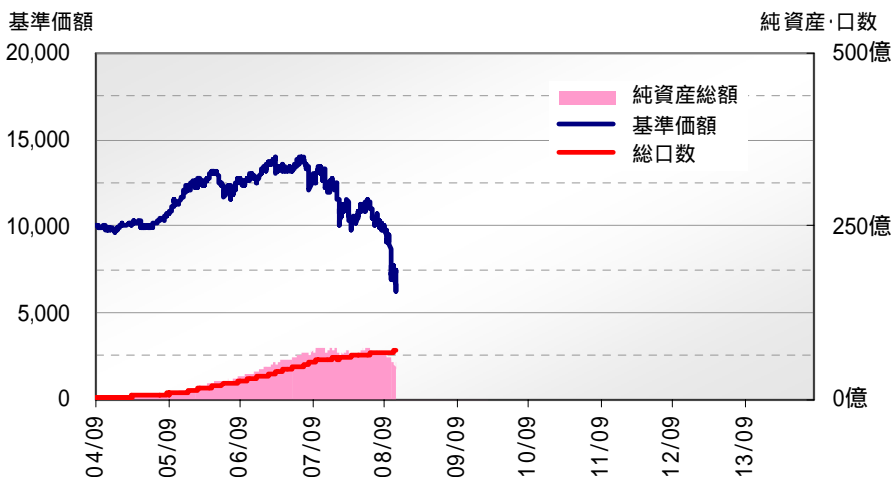
ファンド名	08/09/30	08/10/31	騰落率
さわかみ	12,492	9,924	20.6%
トヨタ	10,543	8,366	20.6%
社会貢献	8,660	6,964	19.6%
Avest-E	9,598	7,359	23.3%
TMA長期投資	8,038	6,583	18.1%
NCヨーロッパ	8,405	6,554	22.0%
NCエマージング	7,769	5,795	25.4%
Alamcoハリス	6,280	5,035	19.8%

10月は、9月のように派手なできごとが続いた訳ではありません。かえって、各国協調利下げなど、やるべきことがしっかりと進められたと言えると思いますが、マーケットの方は完全に恐怖心に支配され、参加者の大勢は周りばかり気にして、そっと手を伸ばしては物音に怯え慌てて手を引っ込める、そんな相場つきが続きました。GLOBEX(24時間開いている先物市場)の米株の先物とか、途中から開く他国の市場とか、目の前の企業の価値とは直接関係ないそんなところばかり見ている、よそ見運転相場です。

そして、金融危機の直接の恐怖がとりあえず薄れたかと思うと、次は景気悪化懸念が台頭し、それも見る見る膨れ上がっていった「恐慌がくる!」「大不況がくる!」と、まるでブロッケン妖怪が出現したような騒ぎです。

ようやく最後に月末にかけて薄日が差し、少しだけぬくもりを感じる事ができました。

基準価額・純資産総額の推移



そんな中、私たちは厚めのキャッシュポジションを保ち、基本的には守りの姿勢を貫いていましたが、引き続き下向きの力が強く、ありがとうファンドの基準価額は4ヶ月連続の下げを記録してしまいました。

もっとキャッシュ比率を上げておくという選択肢もあったとは思いますが、上昇に転じた

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

ときに相場についてゆけて、下げたときにも致命的なダメージを避けられるという意味で、現在の水準がほぼ適切であると私たちは考えており、当面はおおむねこの水準をキープしていくつもりです。とはいえ、相場に連れて大きく下げってしまったという結果は結果であり、やはり本当に申し訳なく思いますし、この事実は真摯に受け止めた上で、今後も最善を尽くしたいと思っています。

さて、先ほど、ブロッケン妖怪と言いました。これは、山などで霧や雲に自分の影が巨大に映って見える現象で虹のような輪の中に現れます。ドイツのブロッケン山でよく見られるのが名前の由来だそうですが、ドイツではこれを妖怪に見立てて恐れたのですね。

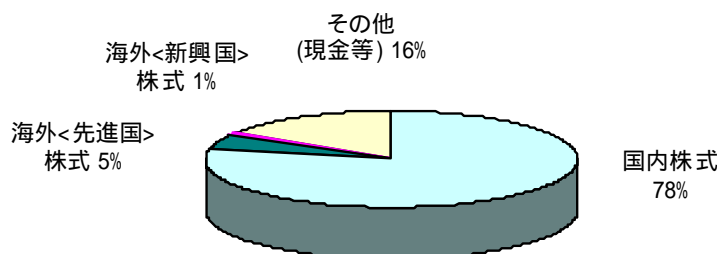
しかし、どんなに大変なことが起こっているように見えても、それが濃い霧の中にいるようなときであるほど、今いる足元をしっかりと見つめれば、いつでも等身大の自分が地に足をつけて立っているだけであって、実体はそれ以上でも以下でもありません。影に怯えて踊れば当然その影もまた踊るので、ますます奇怪な妖怪に見えてしまいます。

霧の影響で少し肌寒さを感じることはあるかも知れませんが、それなら用意の上着を羽織ればいいだけのこと。幸い、私たちの歩いている道(日本経済)は崩落の危険などは縁のない平坦な場所に差し掛かっていましたから、足元の安全度はかなり高い状態です。そこに行く私たちにとって、今は戻る必要もなければ急ぐ必要もない、消耗を避けながら淡々と歩を進めてゆくべき局面だと考えています。

ちなみに、ブロッケン妖怪ですが、日本では、光の輪の中の人影が後光の差した阿弥陀如来と似ていることから、同じ現象を『御来迎(ごらいごう)』と呼んで有難いものと考えてきたそうです。今回の欧米発の危機も、日本から見れば26年まえの価格で株を買わせてくれる千載一遇の好機とも言えます。

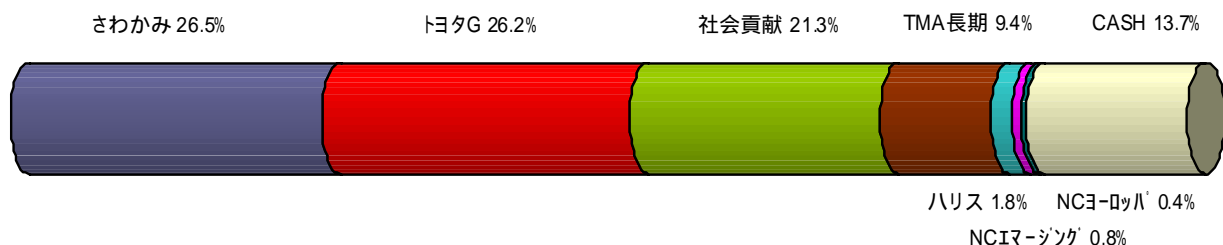
私たちは影に惑わされることなく、いずれ訪れる御来光<日の出>を楽しみに、一步一步前進して行くことにいたしましょう。

ありがとうファンド全体(各ファンドの合計)の資産配分状況 <9月末現在>



投信企画運用部  
ファンドマネージャー  
岡 大

組入れファンドの比率 <10月末現在>



このレポート(P.1-4)の内容に連動した月次運用状況報告会を開催してまいります。今月は11月29日(土) 11:00~12:30。詳しくはセミナー案内をご覧ください。弊社投信企画運用部社員が担当します。

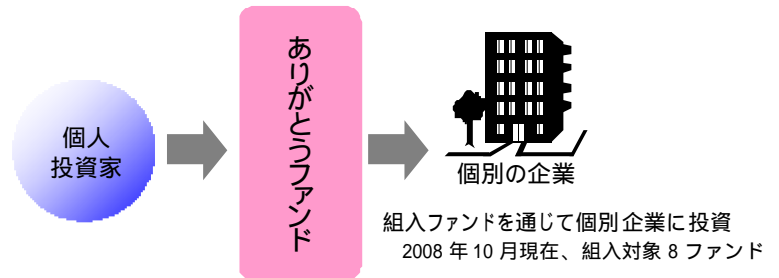
このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

P.5-6 では個別企業の記載がございますが、特定銘柄の投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資の決定はご自身の判断でなさるようお願いいたします。

今月から月次レポートに新しい企画が誕生しました。

ここでは、ありがとうファンドが組入れているファンドを通じて投資している企業についてお知らせしていきます。

ありがとうファンドは「ファンド・オブ・ファンズ」ですから個別の企業には投資していません。しかし、組み入れているファンドは銘柄の選択を行って、「これは」と思った企業に投資しています。



すなわち、ありがとうファンドに入れていただいている資金は多くの企業に投資されているのです。その投資先がどんな企業なのか、皆様ご存知でしょうか？

金融の世界が市場の暴落ととてつもなく激しい変動に揺れています。機関投資家も個人投資家も、呆然とし、余りの不確定さに衝撃を受けています。短期的に市場を考えると多くの判断基準は壊れてしまって役に立ちません。しかしこんな時代だからこそ、長期の時間軸を持つ投資家の役割が光ってくるのです。目先の変動を越えた未来に目を向けて投資ができる投資家がどうしても必要になってきます。「金融主導資本主義」はとりあえずは終焉しました。これからの時代の転換は従来の発想では理解できないものになる可能性があります。いつも以上に不確定な時代における企業への投資を考えると、その企業がどんな姿で、何を言い、何を狙っているのか？という観点で投資家が納得できることが大事だと考えます。皆様がご自分の投資に対して理解を進めていただくことがこのレポートの目的です。細かいことは除いて、あたかも会社が人であるかのように「どんな奴なんだろう？」と興味を持っていただければと願っております。

今回ご紹介する会社は「株式会社サトー」です。

会社の説明をしていただいたのは役員の方でしたが、「うちの会社はものすごく泥臭い会社なんです」と言われたのが非常に印象的でした。会社のレポートを読んでいただくと極めて先進的なシステムを扱っている会社だとご理解いただけるでしょうが、実際の仕事の現場ではそのシステムを顧客に納入して、無事稼働するのを確認するのは全て人間の仕事です。その過程で起こる色々な事態やトラブルに社員の多くの方々が協力して乗り越えてゆく時のエピソードは確かに人間臭くて泥臭いものでした。まさに「会社は人」だと理解できました。

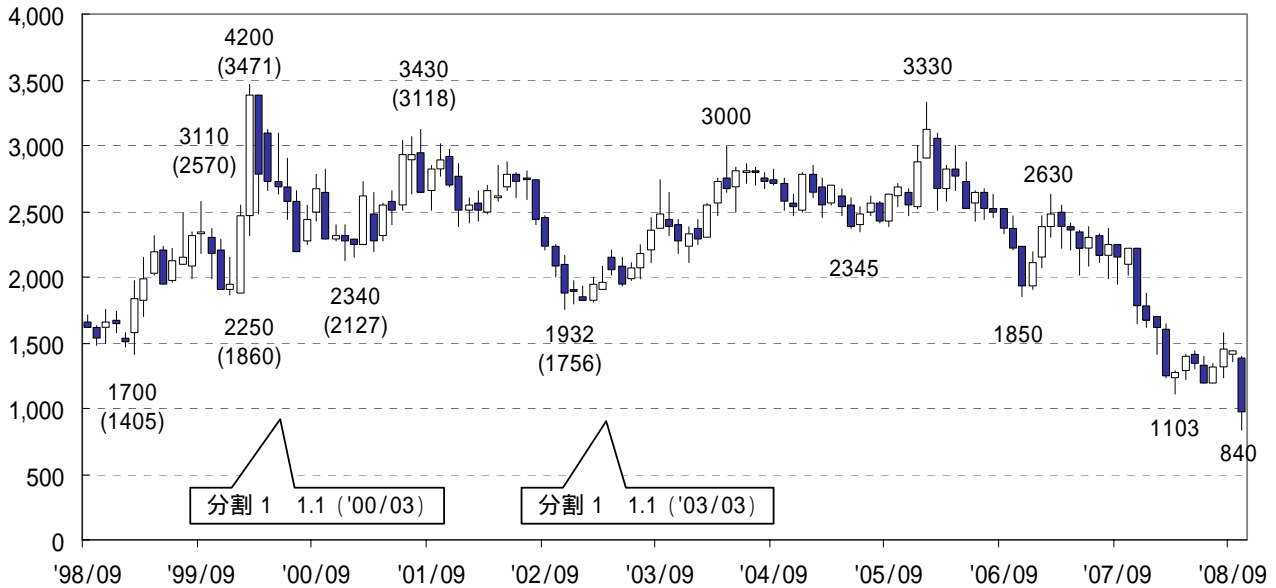
もうひとつお話を興味深かったのは「三行提報」です。社員が三行以内のメールで提案や報告を毎日上司に送るシステムです。三行ですから127字以内。それでも社員の意見が伝わります。お話を伺って早速弊社でもマネをさせていただきました。

当然ですが会社は生き物です。その生き様を弊社のレポートで少しでもお伝えできればと願っています。

(代表取締役兼ファンドマネージャー 村山 甲三郎)

(株)サトー (6287 / 東証1部)

1940 創業、1990 店頭登録、1994 東証二部上場、1997 東証一部上場



### トレーサビリティ

トレーサビリティという言葉をご存知ですか? 「生産、加工および流通の特定のひとつまたは複数の段階を通じて製品の移動を把握できること」を指し、一言では「追跡可能性」と言われます。2003年の狂牛病問題の頃からクローズアップされ、最近では産地偽装や異物混入など、食品の分野で取り上げられることの多い概念です。

私たち消費者や小売店等がその生産・流通の履歴を知るための追跡(トレース・バック)と、問題発生時に業者等が問題製品の流通先を知って効率良く回収等を図るための追跡(トレース・フォワード)とがあり、前者のメリットが強調され勝ちですが、社会全体として安全・安心なシステムを構築するために、生産者や輸送業者まで含めたトータルの仕組みが求められます。

### 製品にラベル付け、読み取り

後からトレースするためには、それぞれの製品にそのための目印をつけておく必要があります。目印としては白黒の縞模様のバーコードが最もなじみ深いですが、他にも二次元バーコードやICを用いた無線タグなどが用いられています。

使用に当たっては、現場でなるべく早くラベルを作成して製品に貼り付け、受取り側では早く正確にそれを読み取らなければなりません。エラーを防ぐために印刷には鮮明さが求められますし、また、ラベルシールの台紙がなくなれば手間が省けてゴミも発生せず一石二鳥ですね。

### (株)サトー

自動認識システムにおいて、こうしたきめ細かい顧客対応を積み重ねて、今やプリンター、ラベラーといった機械からラベル、シール、タグなどの消耗品、さらには保守サービスまでを一貫して取り扱う総合企業として国内トップクラス、世界でも5指に入ろうかという企業が、今回取り上げたサトーです。

また、この会社は30年も前から、本業による「社会貢献」を経営方針に掲げて推進してきたり、海外比率が未だ10%台であった10年近くも前から経営会議の公用語を英語にしたりという先進性ある横顔も持っています。

### 海外投資の収穫期が近づく

ずっと先行投資として徐々に拡大してきた海外比率が既に30%を超えてきて、いよいよ(予定より若干早く)収穫期入りの可能性があります。

(投信企画運用部 ファンドマネージャー 岡 大)

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

グラフはすべて組入れ時を 100 として指数化して表示しています。

## さわかみファンド



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-20.6%	-35.1%	-46.9%	-21.9%

### 株式組入上位10銘柄

	銘柄	業種	組入比率
1	7203 トヨタ自動車	輸送用機器	2.77%
2	4063 信越化学工業	化学	1.82%
3	7267 ホンダ	輸送用機器	1.62%
4	4543 テルモ	精密機器	1.48%
5	4452 花王	化学	1.44%
6	6301 コマツ	機械	1.42%
7	6902 デンソー	輸送用機器	1.40%
8	6752 パナソニック	電気機器	1.39%
9	3382 セブン&アイ・ホールディングス	小売業	1.38%
10	8113 ユニ・チャーム	化学	1.24%

上記比率は、純資産総額に対する比率です。

## トヨタグループ株式ファンドF

(適格機関投資家専用私募)



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-20.6%	-39.1%	-50.6%	-15.2%

### マザーファンド株式組入上位10銘柄

	銘柄	業種	保有比率
1	7203 トヨタ自動車	輸送用機器	52.33%
2	6902 デンソー	輸送用機器	15.33%
3	6201 豊田自動織機	輸送用機器	6.64%
4	7259 アイシン精機	輸送用機器	4.61%
5	8015 豊田通商	卸売業	3.03%
6	7262 ダイハツ工業	輸送用機器	2.87%
7	8761 あいおい損害保険	保険業	2.78%
8	6473 ジェイテクト	機械	2.20%
9	7221 トヨタ車体	輸送用機器	1.71%
10	7282 豊田合成	輸送用機器	1.64%

個別銘柄の保有比率は、現物株式の組み入れ = 100% とした各銘柄の比率です。

## 社会貢献ファンド (適格機関投資家専用)



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-19.6%	-33.3%	-44.0%	-30.3%

### マザーファンド株式組入上位10銘柄

	銘柄	業種	構成比率
1	2593 伊藤園	食料品	4.1%
2	6861 キーエンス	電気機器	3.7%
3	1969 高砂熱学工業	建設業	3.6%
4	7751 キヤノン	電気機器	3.4%
5	6954 ファナック	電気機器	3.3%
6	7203 トヨタ自動車	輸送用機器	3.3%
7	6965 浜松ホトニクス	電気機器	2.9%
8	6856 堀場製作所	電気機器	2.9%
9	7267 ホンダ	輸送用機器	2.9%
10	4204 積水化学工業	化学	2.8%

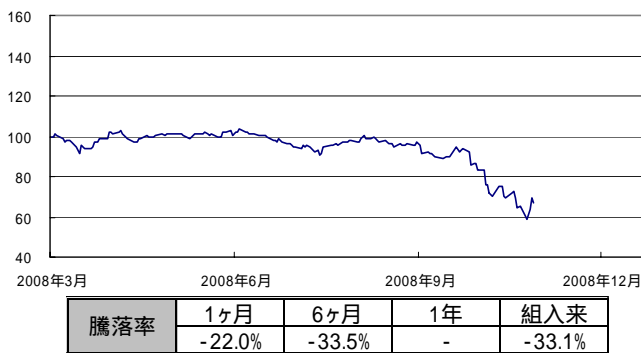
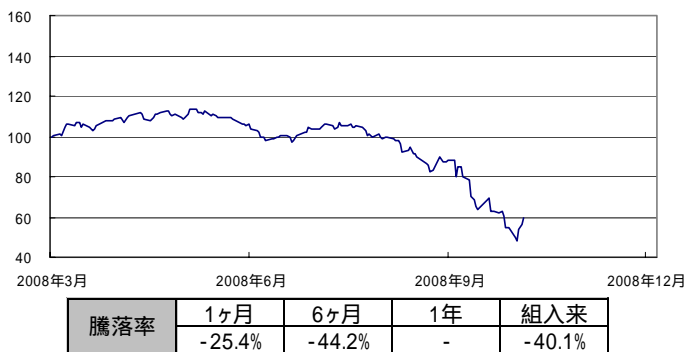
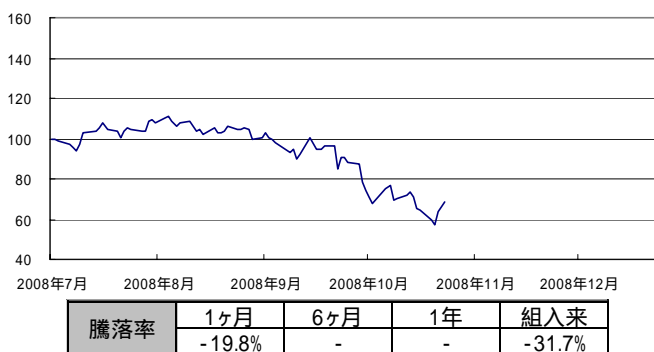
構成比は、現物株式ポートフォリオに占める比率です。

## 朝日 Nvest グローバル バリューストックオープン

2008年10月末現在組み入れを行っておりません。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

## T M A 長期投資ファンド &lt; 適格機関投資家限定 &gt;

ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・  
ファンド S A ( 適格機関投資家限定 )ニッポンコムジェスト・エマージングマーケ  
ッツ・ファンド S A ( 適格機関投資家限定 )ALAMCO ハリス グローバル バリュース  
ファンド 2007 ( 適格機関投資家専用 )

## マザーファンド株式組入上位10銘柄

銘柄	国	業種	比率
1 NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	4.8%
2 信越化学工業	日本	基礎素材	3.9%
3 JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	3.7%
4 トヨタ自動車	日本	自動車	3.6%
5 花王	日本	家庭用品	3.6%
6 キーエンス	日本	産業用エレクトロニクス	3.5%
7 BERKSHIRE HATHAWAY INC-CL A	アメリカ	保険	3.5%
8 テルモ	日本	医薬品・ヘルスケア	2.8%
9 資生堂	日本	家庭用品	2.5%
10 ROCHE HOLDING AG-GENUSS	スイス	医薬品・バイオテクノロジー	2.4%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

## マザーファンド株式組入上位10銘柄

銘柄	MSCI業種分類	国	比率
1 GROUPE DANONE	生活必需品	フランス	8.0%
2 ROCHE HOLDING AG	ヘルスケア	スイス	7.9%
3 SYNTHES INC	ヘルスケア	スイス	5.3%
4 CAPITA GROUP PLC	資本財・サービス	イギリス	5.3%
5 HENNES & MAURITZ AB	一般消費財・サービス	スウェーデン	5.2%
6 ESSILOR INTL	ヘルスケア	フランス	4.8%
7 RECKITT BENCKISER	生活必需品	イギリス	4.8%
8 SODEXO	一般消費財・サービス	フランス	4.4%
9 COLOPLAST -B	ヘルスケア	デンマーク	4.2%
10 STRAUMANN HOLDING AG	ヘルスケア	スイス	3.9%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

## マザーファンド株式組入上位10銘柄

銘柄	MSCI業種分類	国	比率
1 MTN GROUP LTD	電気通信サービス	南アフリカ	5.0%
2 TAIWAN SEMICONDUCTOR-ADR	情報技術	台湾	4.2%
3 CHEUNG KONG HOLDINGS	金融	香港	3.9%
4 RESORTS WORLD BHD	一般消費財・サービス	マレーシア	3.7%
5 EMPRESAS COPEC SA	資本財・サービス	チリ	3.3%
6 SOUZA CRUZ SA	生活必需品	ブラジル	3.1%
7 GOLD FIELDS LTD	素材	南アフリカ	2.9%
8 AMDOCS LTD	情報技術	イスラエル	2.8%
9 ITC LTD	生活必需品	インド	2.8%
10 ANADOLU EFES BIRACIL	生活必需品	トルコ	2.8%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

## マザーファンド株式組入上位10銘柄

銘柄	国籍	業種	構成比率
1 INTEL CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	6.0%
2 HEWLETT PACKARD CO	アメリカ	テクノロジー・ハード・機器	4.6%
3 CREDIT SUISSE GROUP AG-REG	スイス	各種金融	4.5%
4 DELL INC	アメリカ	テクノロジー・ハード・機器	4.1%
5 ADECCO SA-REG	スイス	商業・専門サービス	4.0%
6 JPMORGAN CHASE&CO	アメリカ	各種金融	4.0%
7 MERRILL LYNCH & CO	アメリカ	各種金融	3.9%
8 SCHERING-PLOUGH CORP	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	3.9%
9 CARNIVAL CORP	アメリカ	消費者サービス	3.7%
10 BANK OF NEW YORK MELLON CORP	アメリカ	各種金融	3.5%

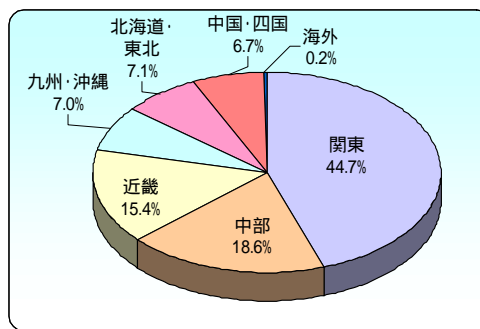
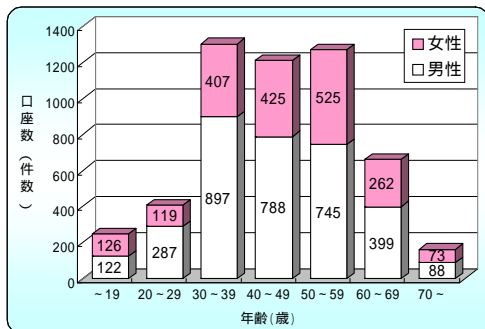
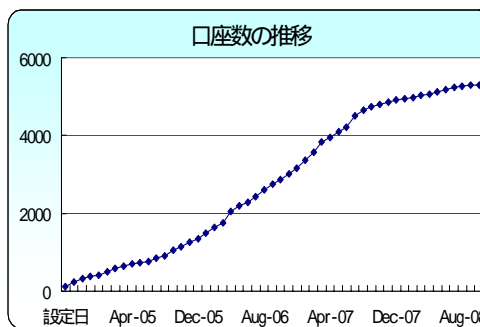
構成比は、現物株式ポートフォリオに占める比率です。

(組入れ銘柄は2008/9/30基準)

このレポートは、ありがとうございますファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとうございます投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

口座数の推移と年齢・地域分布

顧客数	前月比
5,303名	+8名
個人比率	毎月購入比率
99.2%	49.5%



毎月購入サービスのスケジュール

今後の毎月購入サービスになります。各締切日に間に合わない場合、翌月の取り扱いとなりますので予めご了承下さいませようお願い申し上げます。

	新規申込・口座変更	金額変更・中止	引落日	ファンド購入日 (約定日)
平成20年12月分	受付終了	11月26日(水)	12月8日(金)	12月18日(木)
平成21年1月分	12月4日(木)	12月22日(月)	1月6日(火)	1月19日(月)

特定口座申込書に関して

先月末特定口座の申込書を発送いたしました。大変重要な書類でございますので、必ずご覧頂きますようお願い申し上げます。なお、まだお手元に届いていないお客様は至急弊社までご連絡下さい。

ゆうちょ銀行・シティバンク銀行から弊社口座へファンド買付のご送金を頂いた際の変更について

ゆうちょ銀行・シティバンク銀行からファンドの購入のために弊社口座へご送金いただいた場合、以前はお客様のご送金日の翌営業日が、弊社口座への入金日となっておりますが、平成20年11月10日より当日の入金となります。

これにより、お客様のご送金日からファンド約定日(購入日)までが短縮され、通常通り、入金を確認してから翌々営業日での購入となりますので、両行をお使いのお客様はご注意下さい。

ありがとうファンド毎月購入サービス(定期定額購入)の引落し対象銀行につきまして

毎月購入サービスの引落し対象銀行に2つのネット銀行が追加されました。追加されたのは、住信SBIネット銀行とイーバンク銀行です。今後はこちらの銀行口座からのお引落しが可能となりましたのでご利用下さい。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

ビジョナリー・カンパニー 時代を超える生存の原則 / 日経 BP 社  
 ジェームズ・C. コリンズ (著), ジェリー・I. ポラス (著), 山岡 洋一 (翻訳)



長期投資は「長期の時間軸を持って企業の成長とともに資産を増やしていく仕組み」と誤解を恐れず定義するならば、「成長し続ける企業をどう見つけるのか」という疑問にぶつかることだろう。そんなときに参考になるのがこの本である。

時代を超えて生き残る企業が、どのように成長し続ける「仕組み」を社内に構築してきたのか、幾多の困難をどのような決断で乗り越えてきたのか。ライバル企業と比較し、その違いを浮き彫りにしている点が実に面白い。日本を代表する企業経営者の多くがこの本を部下に読ませるとも聞く。ありがとうファンドが組み入れファンドを通じて最終的に投資をしている個別企業の一つもこの本の中で詳細に分析されている。

(ありがとう投信 伝能浩)

『ありがとうファンド』の概要

商品分類	追加型株式投資信託 / ファンド・オブ・ファンズ
信託期間	無期限
決算と収益分配	毎年 8 月 31 日 (休業日の場合は翌営業日)
お申込単位	1 万円以上 1 円単位
お申込価額	取得申込受付日の翌々営業日の基準価額
ご解約単位	1 円以上 1 円単位
ご解約価額	解約請求受付日の翌々営業日の基準価額
委託会社 (販売会社)	ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第 304 号 (社) 投資信託協会会員
受託会社	日興シティ信託銀行株式会社 登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第 25 号 (社) 日本証券業協会会員

『ありがとうファンド』にかかるリスク

主なリスク 「価格変動リスク」「流動性リスク」「ビジネスリスク」「為替リスク」「カントリーリスク」「ファンド資産の流出によるリスク」

当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、**損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。**ファンドに投資することに伴うリスクはお客様のご負担となりますしファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また**元本及び利息の保証はなく預金保険の対象でもありません。**

『ありがとうファンド』にかかる手数料等

申込手数料	お申込にあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。
換金(解約)手数料換金	手数料はありません。
信託財産留保額	信託財産留保額ははありません。
信託報酬	ファンド純資産総額に年 0.945% (税込 0.9%) の率を乗じて得た額とします。 [実質的信託報酬 信託財産の純資産総額に対し年 1.6% ± 0.3% (概算)]
その他の費用等	当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。 当ファンドに組み入れるファンドを売買する際に発生する売買委託手数料およびこれにかかる消費税相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。 実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。